つぶやき

「居心地の良い場所とは」

三重県教職員組合 清水 愛里

私のクラスでは、「班ノート」をしている。これは、先生と生徒がやり取りをするものではなく、同じ班のメンバーとやり取りをする交換ノートのようなものだ。子どもたちは、部活動での悩みや、家庭での悩み、ずっと誰にも言えなくて苦しかったことや、嬉しかったことや楽しかったことなど、心の中に秘めた思いを書いてくる。初めは「何を書いたらいいんだろう？」と言っていた子も、他の子の書いてきた内容を読み、自分の中に湧き上がってくる思いを書き記してくるようになった。「普段はちょっかいばかり出してしまうけど、本当は自分のことが嫌いなんや…。」「嫌われるのが怖くて、強い態度に出ちゃう…。」「家族といると素直になれないよ…。」と、裸の言葉で書いてくる。ある子が、こんなことを書いてきた。「班ノートを読んで、みんなが自分の悩みや弱いところを話してくれてすごくうれしい。だけど、自分には何も話せない。何もないのか、気づいてないのか、わからない。だけど、ノートを読んでたら、胸が苦しくなってきたから、自分にも（何か）あるんだと思う。」これを読んで私は、胸が熱くなった。一人ひとりが自分を振り返り、それを知った他の子がまた自分を振り返る。そして、自分のことでたくさん悩んだ子が、相手のことも一生懸命に考えようとしている。班ノートをきっかけにして、心のつながりが生まれていることがわかった。

子ども達は、たくさんの痛みや苦しみと出会っていながら、それを隠して平気な顔で今日も教室に座っている。自分を隠して、仮面のまま過ごしていると、自分のことを大切にできなくなるものだと思う。それとは逆に、「誰かが自分のことを知ってくれている」と感じられることは、大きな安心感につながる。そして、「ここでなら、自分の本当の気持ちを言ってみようかな。」と思える。それは大人でも同じだと思う。だからまずは私自身が仮面を脱いで、向き合っていこうと思う。これからも、そんなクラス、そんな社会をつくっていきたい。